

平成29年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	麻生区第3グループ(白山・麻生)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H28	H29	H28	H29				
利用実績	1 白山こども文化センター							
	①年間延べ利用者数		33,223人	32,655人	②年間延べ利用団体数	1,351団体	1,413団体	
	2 真福寺小学校わくわくプラザ							
	①登録者数		185人	182人	②年間延べ利用者数	11,971人	11,577人	
	1 麻生こども文化センター							
	①年間延べ利用者数		22,539人	23,460人	②年間延べ利用団体数	195団体	185団体	
収支実績	2 麻生小学校わくわくプラザ							
	①登録者数		414人	411人	②年間延べ利用者数	17,653人	17,040人	
	単位:円							
	1 収入							
	指定管理料							82,730,425
	2 支出							
人件費							61,157,951	
管理費							4,698,141	
事務経費							4,064,357	
その他経費							4,022,628	
合計							73,943,077	
3 差引							8,787,348	
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・白山こども文化センターでは、年間を通して、月2回乳幼児行事を実施した。「どれみフレンズ」では、音楽に合わせて手遊び、リズムなど親子のスキンシップを深め、父親の育児参加を後押しするパパさん会や父子の絆を深める「パパ鬼をやっつけろ」等、子育て世代をサポートする行事が充実している。また、新たな取組として、地域住民が講師となり、子どもたちがダンスやゲームをしながら英語を学ぶ「英語で遊ぼう」を実施した。 ・麻生こども文化センターでは、今年度新たに、老人いこいの家と合同で「マンカラ大会INあさお」を実施し、このイベントがきっかけとなって、定期的にいこいの家とマンカラ大会が行われるようになったほか、麻生小学校わくわくプラザでは、「麻生老人いこいの家交流祭」にダンスチーム「ASAOLA！」が出演するとともに、今年度は、大正琴の団体の演奏に合わせて、子どもたちが歌を歌う等、連携を深めながら、多世代交流が図られている。 ・こうした取組により、グループ全体の利用者数は、約350人増加した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努め、購入図書の設定や行事内容等に利用者意見を反映しているとともに、苦情等への対応が適切に行われている。 ・特別な配慮を要する利用者への対応について、学校や保護者、職員全体で情報共有を行うとともに、「障がい児対応」研修を受講し、個々の児童に合わせた対応をしている。 ・学校及び行政機関との連携について、学校教育推進会議や学校行事の参加に加え、中学校の職場体験受け入れ等、地域と連携し事業を実施している。特に、白山こども文化センターでは、隣にある白山保育園と連携を深め、年4回「遊びの広場」を実施しているほか、昭和音楽大学のコーラスグループ「ピーナツバター」がボランティアで歌を披露したり、地域のボランティア団体「むじなが土曜塾」との共催イベント「虫とり博士になろう」を実施したり、地域教育会議主催のイベント「ひだまり大作戦」に参加したりするほか、「運営協議会共催ウィンターコンサート」では、新たに麻生養護学校との連携が図られるなど、地域団体等との連携を積極的に強化している。 ・施設・行事の広報について、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。また、「あさお子育てフェスタ」に参加した際、こども文化センターのホームページのQRコード・URLを載せたチラシを配布し、こども文化センター事業を積極的にアピールした。また、白山こども文化センターでは、乳幼児向けたより「びよびよ通信」を毎月発行するとともに、「中学生・高校生たより」を年3回発行しているほか、「運営協議会共催ウィンターコンサート」では、運営協議会で広報の工夫についても話し合い、協議会メンバー全員で手分けして地域にチラシを配布し宣伝して回るなど、地道な広報活動を行った結果、参加者が約2倍に増えた。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8	
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しており、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。区研修として、「多世代・異年齢交流の促進について」の研修を実施し、多世代交流を促す環境づくりの大切さや子ども文化センターの役割、多世代が参加できるムーブメント遊びを学び、此文をきれいにする行事である「こ文変身大作戦」の参加者対象者を幼児から高齢者まで広く募り、協力してペンキ塗りをできるように工夫し、より多世代交流が図られるような内容とした。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年3回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。また、老人いこいの家との合同避難訓練の実施、グリーンタウン自治会の合同防災訓練への参加、麻生警察署と協力した交通安全教室の実施など、地域団体や警察等と連携した積極的な防災対策を行っている。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
	支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業、新規事業にも取り組んでいる。特に、新規事業として麻生子ども文化センターでは、今年度新たに、老人いこいの家と合同で「マンカラ大会INあさお」を実施し、このイベントがきっかけとなって、定期的にいこいの家とマンカラ大会が行われるようになるなど、多世代交流を推進した。また、各種研修に参加し、職員の資質向上に努め、良質なサービスを提供している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子ども顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。